

平成19年におけるボイラー等の 災害発生状況

平成19年に発生したボイラー及び圧力容器関係の事故のうち、重大なものとして事故発生の事業場を所轄する労働基準監督署で調査を実施した事故は8件であり、これらの事故に伴う死傷者は5名であった。

容器の内訳は、ボイラーの事故4件で死傷者なし、第一種圧力容器の事故が1件で死傷者なし、第二種圧力容器の事故が3件で死傷者5名となっている。

業種の内訳は、製造業が5件（死傷者2名）、建設業が1件（死傷者3名）、医療業が2件（死傷者なし）となっている（表1参照）。

事故の種類別にみると、爆発が4件、破裂が2件、低水位が2件となっている（表2参照）。

これらの事故の要因についてみると、8件の事故に対して10件の要因が認められる。これらの要因の内訳は、「管理の不良」が8件、「安全装置不良」が2件である。さらに、「管理の不良」については、「点検整備の不良」が3件、「作業方法手順の誤り」が3件、「その他」が2件（経年使用に伴う減肉によるもの、製造許可、構造検査等を受けていなかったもの）となっており、「安全装置不良」については、「具備していない」が2件となっている（表4参照）。

表1 ボイラー及び圧力容器による事故の業種別件数、死傷者数

(平成19年)

業種	ボイラー等の種類		ボイラー		小型ボイラー		簡易ボイラー		第一種圧力容器		第二種圧力容器		計	
	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数
合計	4								1		3	5(0)	8	5(0)
建設業											1	3(0)	1	3(0)
化学工業	1												1	
プラスチック製造業	1												1	
窯業・土石製品製造業									1				1	
鉄鋼業											1	1(0)	1	1(0)
輸送用機械器具製造業											1	1(0)	1	1(0)
医療保険業	2												2	

()内は死亡者数で内数

表2 ボイラー及び圧力容器の事故の種類別件数、死傷者数

(平成19年)

事故の種類	ボイラー等の種類		ボイラー		小型ボイラー		簡易ボイラー		第一種圧力容器		第二種圧力容器		計	
	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数	事故件数	死傷者数
合計	4								1		3	5(0)	8	5(0)
爆発	1										3	5(0)	4	5(0)
破裂	1								1				2	
低水位	2												2	

表 3 ボイラー及び圧力容器の種類別、事故の種類別件数

(平成19年)

ボイラー等の種類 事故の種類	ボ イ ラ ー							小型 ボイラー	簡易 ボイラー	第一種 圧力容器	第二種 圧力容器	合 計	
	蒸 気					温 水	貫 流						小 計
	水 管 式	立 て 形	炉 筒 煙 管 式	鑄 鉄 製	横 置 煙 管 式								
合 計	2		2					4		1	3	8	
爆 発	1							1			3	4	
破 裂	1							1		1		2	
低 水 位			2					2				2	

表 4 ボイラー及び圧力容器の事故の要因別件数

(平成19年)

ボイラー等の種類 事故の要因	構造の欠陥						管理の不良							安全装置不良			合 計	
	溶 接 工 作 不 良	板 厚 不 良	材 質 不 良	構 造 不 良	自 動 制 御 装 置 の 不 備	そ の 他 計	点 検 整 備 の 不 良	監 視 不 良	計 装 器 類 の 故 障	作 業 方 法 手 順 の 誤 り	技 能 の 未 熟 (無資格も含む)	給 水 を 怠 る	水 処 理 の 不 適	そ の 他 計	機 能 不 良	具 備 し て い な い 計		小 計
合 計							3			3				2	8	2	2	10
ボ イ ラ ー									3					1	4			4
小型ボイラー																		
簡易ボイラー																		
第一種圧力容器													1	1	1	1		2
第二種圧力容器							3								3	1	1	4

(注) 1件の事故で要因が2以上になることもある。

